

令和6年度 第2回苫小牧市文化財保護審議会 会議概要

日 時：令和7年3月18日（火）15：00～16：00

会 場：苫小牧市役所第2庁舎2階北会議室

○出席委員 蓑島会長、明村副会長、菊地委員、佐藤委員、中村委員
山岸委員 林崎委員
7名出席 （欠席3名：大西委員、工藤委員、野村委員）

○教育委員会（事務局） 生涯学習課 河本課長、斉藤課長補佐
南部谷主査 濱田主任主事
美術博物館 藤原館長、岩波学芸員、佐藤学芸員

1 開 会

2 会長挨拶 苫小牧市文化財保護審議会 会長 蓑島 栄紀

3 報 告

(1) 明治天皇行幸跡石碑（柳町）の移転完了について

⇒11月16日に移転作業が完了したことを報告する。

今まで以上に人が訪れてくれることを期待する。【審議会報告資料参照】

4 議 事

(1) 前回の協議経過について

⇒【審議会資料1】により経過の説明を行う

⇒ 勇払地蔵尊について追加説明

《協議録》

(学芸員)

状況確認をしてきた。地蔵の足元がひび割れており、後年になってセメントのようなもので補修されていることが確認できた。修復状況を確認したが、専門家による修復ではないと思われる。今回の文化財の候補として外れることはないが、状況報告いたします。

(委員)

決して文化財候補に値しないということではない。今後、対応が必要となるかもしれない。

(委員)

欠けていた部分を地元の人(当時管理していた人と思われる)が修復したと思う。今後、費用面もあるが復元することは可能なのか

(学芸員)

博物館や美術館などで保管されているすべてのものにいえるが、その資料や作品がつくられた当時の状態(場所なども含む)をできるだけ変えないこと、そして現状維持が一番良い。一口に復元といっても修復の度合いや方法は様々であり、むやみに地蔵尊に手を加えることはしないほうがよい。地蔵尊が文化財となった場合、可能であればセメントを一度除去したうえで、現状に応じた適切な保存処置を行い保護するのが望ましい。

(委員)

セメントが付いたままで、「文化財指定として問題ないのか」と言われなかが心配

(委員)

文化財として指定されているもののなかには色々と経過がある。修復などがあるからといってただちに指定に値しないとはならない。指定されたのちに対応してくということもある。セメントで補修されているからといって文化財指定をためらうことはない。

(委員)

昭和 49 年に史跡公園となった。墓碑についても当初は別の場所にあった。動かして市指定となってよいのかとの話にもなった。なぜ、地蔵尊だけ指定されなかったのか。改めて当時の経緯は。

(学芸員)

墓碑と地蔵尊は 2 回場所を移動している。まず昭和 29~30 年に元々の位置から 1 か所に整列集約されている。墓碑が置かれた場所がのちに工場用地となるなどして昭和 40 年代には移転問題が議会等で取り沙汰されたが、「墓碑の移転は歴史的価値を半減させる」として市立苫小牧図書館館長だった小野慶郎氏を中心となり移転に反対した。小野氏が退職して 3 年後の昭和 48 年に、苫小牧開基百年記念事業の一環で現在の場所に移転し史跡公園として整備された。地蔵尊が文化財指定になっていなかったのは、昭和 30~40 年代に八王子千人同心に関する研究がさかんに行われ、八王子市との姉妹都市盟約締結の機運が高まっていたことから、墓碑ばかりが注目されたためではないかと個人的には考えている。また、その当時の文化財関係書類には地蔵尊への言及は特に見られない。元苫小牧市博物館館長の佐藤一夫氏も地蔵尊が文化財指定になっていない理由は不明としていた。

(2) 指定文化財候補の決定方法について

- ・候補数の考え方について
- ・決定方法について

⇒〔審議会資料2〕により説明。委員の了承を得る

〈協議録〉

(委員)

今回候補となっている2つの貝塚について、どちらがどうといった判断基準があるのか、市の方針として考えがあるのか

(事務局)

教育委員会としては、指定についての方向性というものはでていない。前回、38年ぶりに市指定文化財を認定できたばかりなので、今後、次に指定された文化財によって、同じ方向へ向かうのか、違う方向を模索するのか、考えていきたい。

(委員)

苫小牧は文化をあまり大切にしていけないように思う。できることをしていかないといけない。美々やウトナイの方も荒れて整備されていない。弁天についてもなかなか行ける状況とはなっていない。指定することも大事だが、管理していくことも考えなくてはならない。

(事務局)

この審議会で管理どうこうということにはならないが、言っている主旨は理解します。教育委員会議などで、生涯学習課として伝えていく必要があるかと思う。

(事務局)

市指定文化財を増やしていくことの理由として、文化財の保護が大きな理由となっている。市指定文化財を増やすことで、保護できる指定文化財を広げていければと考える。

(事務局)

植苗、弁天、2つの貝塚について、出土物を含めての候補と考えていますか。

【学芸員】

植苗について、ここに貝塚があったということで、内陸にまで海が入っていたことが証明される事象として苫小牧の当時の自然環境を示す重要なものであり、遺跡そのものが、史跡等範囲で捉えることができる。

弁天については、アイヌの人達が和人からもたらされたモノを使用しながら、自分たちの伝統的なモノを制作していた事実を証明するものとなっている。遺跡は現在、海中にあることから、出土物を指定と考えている。

(委員)

自身は福岡県出身で、福岡にいるときには何もないところと思っていたが、外にでることで色々なものがあることに気づかされた。文化財についても利活用することで、外からの視点を入れることで見えてくることがある。若い人にも興味を持ってもらえるのではないか。

(事務局)

現段階では、文化財の発見ツアーなどで行ったりしている。博物館でも前回指定したタプコブ遺跡を目立つように展示してくれている。管理の方法が重要で、静川遺跡は本来は国指定の重要な遺跡となっているが、現状は埋め立てられて見ただけでは丘しかない。現在の状況を維持し、利活用できる方法を考えていく必要がある。

(事務局)

苦小牧のことを子供たちにもっと知ってもらいたい。苦小牧の子供たちが市外に出て行ったときに、苦小牧にこのようなものがある。と言えるようにできるだけ多くの人に知ってもらうようにしていきたい。利活用のあり方も考えていきたい。

(委員)

静川は残念だった。利活用として小学校の3、4年生で縄文学習がある。市指定となれば、社会科の授業で現地を見に行きやすくなるのではと思う。(市指定文化財を)小学校の教材の一部として活用してもらいたい。

(3) 推薦文化財の決定確認

《各委員からの推薦について》

(委員A)

なぜ地蔵尊だけ指定となっていないのかという思いがある。勇払地蔵尊を推薦したい。

(委員B)

今回提案された3つの文化財どれもふさわしいと思う。弁天貝塚については学術的にも重要で早い段階で指定していただきたいとの思いはある。現状を見ると、勇払ですでに指定されている蝦夷地開拓移住隊士の墓とセットで評価されるものであると考える。その思いから、今回は勇払地蔵尊を推薦したい。

(委員C)

勇払地蔵尊を推薦したい。利活用の話があったが、ふるさと教育として勇払中学校では勇払地域にある八王子千人同心の史跡巡りをしている。歴史的な背景を伝えようとしている。5月に八王子の小学校が来る時にも話をしたいと思う。

(委員D)

これまでの経過を聞いて大事な場所であることから、勇払地蔵尊を推薦したい。

(委員E)

植苗貝塚の歴史にはくわしくないので、専門的なことは言えないが、今、見られる状態にある自然現象の跡がみられ、かつて海だったことが温暖化の理由かわらないがみられる遺跡であることから植苗貝塚を推薦したい。

(委員F)

勇払地蔵尊の話で円空(権現像及び奉納品7点)を思い出した。地域の人が信仰している、愛情があるものである。服を着させたり、そのうえで文化財として認めてあげることが、庶民が認めているものを大切にしていることである。勇払地蔵尊を推薦する

(委員G)

他の委員が言われた理由が貴重である。地域密着、地域の愛着が一番かもしれない。色々とわかり、地域のことを考えても良い文化財といえる。勇払地蔵尊を推薦する。

(事務局)

以上の協議経過から、「勇払先駆者墓碑及び勇払地蔵尊」を推薦したいと思います。

5 その他

6 閉 会